

# 日本語学習を通じて感じた「日本」と「韓国」

texted by 滋賀銀行 香港支店 李 銘妍

最近の円安効果で香港から日本を訪れる旅行者の数が急増し、「日本」が再び見直されている。東日本大震災や円高等の影響で一時は激減したものの、今では震災前の状態にまで回復、今夏から今秋にかけての訪日ツアーは売り切れが出るほどだ。一方で、「韓国」の存在感も感じるようになってきている。これらの背景について、日本語学習を始めた香港人の視点からレポートする。

## 日本語学習のきっかけ

当行の香港支店で勤務すること約5年、日本語を学習し始めて半年が経った。日本語が話せれば日本人行員とのコミュニケーションを深めることができ、何より、日本人のお客さまへの対応や電話が日本語で少しでも出来るようになれば、と思ったことがきっかけだった。

現在、私が通う香港日本文化協会には日本語の受講生が約1,800名いる。年齢も10歳から70歳を超える人までと、幅広い。定期的に試験もあり厳しいと評判だが、授業内容は充実し

ている。受講生の中には、20年以上通い続けている人もいる。なぜ香港人は日本語を学ぶのか。受講生の話から、日本に興味を持ったきっかけは主に日本の「衣・食・エンターテインメント」に分けられるのではないかと私は考えている。

## 韓国のプレゼンスの高まり

一方でこの数年、韓国語を習う香港人も増加している。韓国ブランドの浸透により携帯電話、テレビ等は韓国製品のシェアが高いと実感する。日本製は高品質だが高価すぎ、中国本土

製は安い品質に不安がある。結局、納得して買うことができるのは韓国製となることが多いようだ。また、日本のイメージだったものが韓国にとって変わろうとしている。例えば、「桜」や「もみじ」の景勝地。かつては日本だったが、今では桜のお花見も紅葉鑑賞も韓国ツアーの宣伝として目にするようになってきている。

ここで日本と韓国を「衣・食・エンターテインメント」に分けて比較してみたい。

### ①衣

香港人の目には、日本のファッションスタイルは、非常にクリエイティブでユニークに映る。特に若い人の目にはそ



日系スーパーでも韓国のテレビがメインで置かれ、日本のテレビはほとんど見かけない

れがかっこよく、かわいらしく見える。日本製の洋服や化粧品は相変わらず人気があるが、私は韓国の服をよく購入する。日本製と同じくらいファッション性が高い上、値段が日本製よりも安いの

### ②食

香港人は日本食が大好きだ。その理由はおいしいことと、ヘルシーであることが挙げられる。「日式」と呼ばれる料理店も含めると日本料理店は約700店あり、幅広い年齢層から支持を得ている。韓国料理店はそれほどポ



インスタント食品も、日本ブランドより韓国ブランドが安く、売れ行きも良い

ピュラーではないが、最近はイチゴや梨などの韓国産農産物が普及し始めている。

### ③エンターテインメント

日本のゲームやアニメはとても人気がある。日本語を学ぶきっかけもアニメやゲームからという人が多い。香港では毎年、アニメ博（香港動漫電玩節）が開催され、約70万人が最新の漫画やプラモデルなどを買うために押し寄せる。ただ、テレビドラマは断然、韓国のものが人気だ。

## 守れ！日本のイメージ

香港人は日本の高品質の製品を手に取り、また、日本人の仕事への態度やこだわり、日本の素晴らしい伝統・文化に触れることによって視野を広げてきた。だからこそ、日本には経済の活性化はもちろん、その独自のイメージをこれからも守って欲しいと強く願っている。私も一生懸命日本語を勉強し、いつか日本に行ってみたく思う。そして、日本語を仕事でも生かしていけるよう努力していこうと考えている。

## スマートフォン市場の拡大とその弊害

中国のスマートフォン利用者は年々増加している。2012年度末の携帯電話普及率は全人口の83%、約11億人にのぼり、そのうちスマートフォン利用者は約3億人、増加率は前年比200%を超えている。携帯アプリの利用率や携帯広告の閲覧率ですでに世界一で、ハード、ソフトウェアメーカーによる競争は激しさを増している。

このような中で大きな社会問題となっているのが個人情報の漏えいである。個人情報の取り扱いについては法律で定められているものの、実際の管理体制は取扱業者、アプリ制作会社に一任されており、情報取得者による情報の利用方法や履歴までは管理されていない。実際、私の携帯にも知らない番号からセールスの電話や不動産勧誘のメールが毎日のように入ってくる。

また、スマートフォン普及によって利用者が急増しているのが、SNS（ソーシャルネットワークサービス）である。微信（ウェイシン＝中国版LINE）や微博（ウェイボー＝中国版Twitter）といったSNSで知らない同士が簡単に知り合い、タイムリーな情報交換が行われている。

経済開発区のような工場の多いエリアでは、従業員同士がSNSで賃金や労働条件の情報を交換し、上司に待遇の不満を抗議する者もいれば、条件の良い職場に転職する者も多いという。日本では考えられない企業情報の漏えいであるが、中国ではコンプライアンスや情報の守秘義務に対する根本的理解が希薄なのが実情である。経営マネジメントにおいて企業文化の教育、人材育成の重要性は日本以上に高く、業績を左右するカギになるだろう。

（しがきんアジア月報7月号より 武漢研修生 宮内）



スマホ新機種に好奇心旺盛な消費者



日本語学校上級クラスのテキスト（芥川龍之介「蜘蛛の糸」）。授業内容、生徒の質ともレベルは高い



筆者。週に一度は日本語学校に通い、猛勉強中